

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 10 号

第 10 週(3月 7日 ~ 3月 13日)

発行年月日:平成17年(2005年) 3月 18日

発行:滋賀県立衛生環境センター
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (10週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (10週)	全国 (10週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	2	121	9	576
	腸チフス	0	0	10	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	110	21	3,640
4類感染症	E型肝炎 ^{(*)2}	0	0	8	1	34
	オウム病	0	0	14	1	39
	デング熱	0	1	5	2	45
	マラリア	0	0	14	2	73
5類感染症	アメーバ赤痢	0	0	118	8	580
	ウイルス性肝炎	0	0	67	5	299
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	17	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	0	210	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	11	2	85
	梅毒	0	0	94	4	516
	破傷風	0	0	10	2	100
急性脳炎 ^{(*)2}	0	0	29	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2:平成17年第8週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

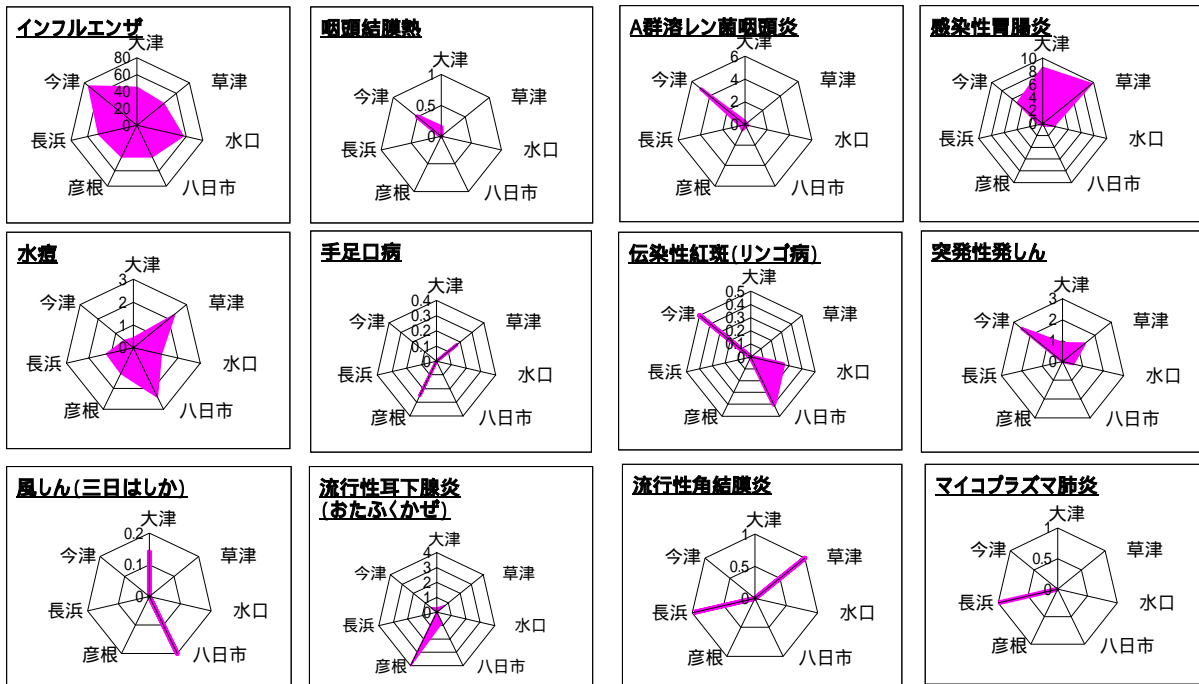
(1)疾病別・週別発生状況(第5~10週、1/24~3/13)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	5週		6週		7週		8週		9週		10週	
	(1/31~)	(2/7~)	(2/14~)	(2/21~)	(2/28~)	(3/7~)	6	7	8	9	10	
インフルエンザ	5.61	17.25	25.37	46.10	49.16	45.49						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	0.12	0.06	0	0	0	0.06						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.52	0.64	0.45	0.82	1.00	0.58						
感染性胃腸炎	6.39	5.12	5.03	4.21	4.03	4.27						
水痘	1.61	1.82	1.39	1.42	2.09	1.39						
手足口病	0.12	0.21	0.24	0.09	0.03	0.06						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0.06	0	0	0.12						
突発性発しん	0.58	0.61	0.45	0.42	0.36	0.64						
百日咳	0.03	0	0	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0	0.06	0	0.06						
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0.03						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0.03	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.39	0.55	0.79	1.45	0.76	0.82						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.43	0.14	0.14	0.57	0.14	0.29						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0.57	0	0.29	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0.29	0.14	0.14	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第10週、3/7~3/13)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	45.49	44.09	39.70	54.86	40.75	40.71	45.40	72.00
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.06	0.14	0	0	0	0	0	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.58	0.29	0.17	0.25	0.20	0.50	0.40	5.00
感染性胃腸炎	4.27	8.57	9.67	1.75	0.40	0.25	0.60	5.00
水痘	1.39	0.43	2.33	1.25	2.40	1.25	1.20	0.50
手足口病	0.06	0	0.17	0	0	0.25	0	0
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.12	0	0	0.25	0.40	0	0	0.50
突発性発しん	0.64	0.86	1.33	0.50	0	0	0	2.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.06	0.14	0	0	0.20	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50
麻疹(成人麻疹を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.82	0.29	0.67	0	0.80	4.00	0	0.50
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.29	0	1.00	0	0	0	1.00	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの県内における発生は先週に引き続き非常に多い状態となっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については先週に引き続き今津で多くなっており、水痘については草津で先週より多くなっています。

また、報告数は少ないですが伝染性紅斑(リンゴ病)は水口、八日市および今津から報告されており、風しんは大津および八日市から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

県内7保健所管内全てにインフルエンザの流行発生警報 インフルエンザの発生はやや減少のきざし

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(2月28日～3月6日)の報告数より少なくなっており、特に、インフルエンザの発生はピークを過ぎ減少のきざしとなっています。また、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、突発性発しん、流行性耳下腺炎等で増加しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

インフルエンザについては、先週の定点当たり患者数49.16よりやや減少し45.49となっていますが、県内全ての保健所管内に「感染症の流行の警報・注意報システム(注)」による**流行発生警報**が出されています。引き続き「**手洗いとうがいを十分にする**」、「**人混みを避ける**」、「**マスクを使用する**」などの注意が必要です。

(注)感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム

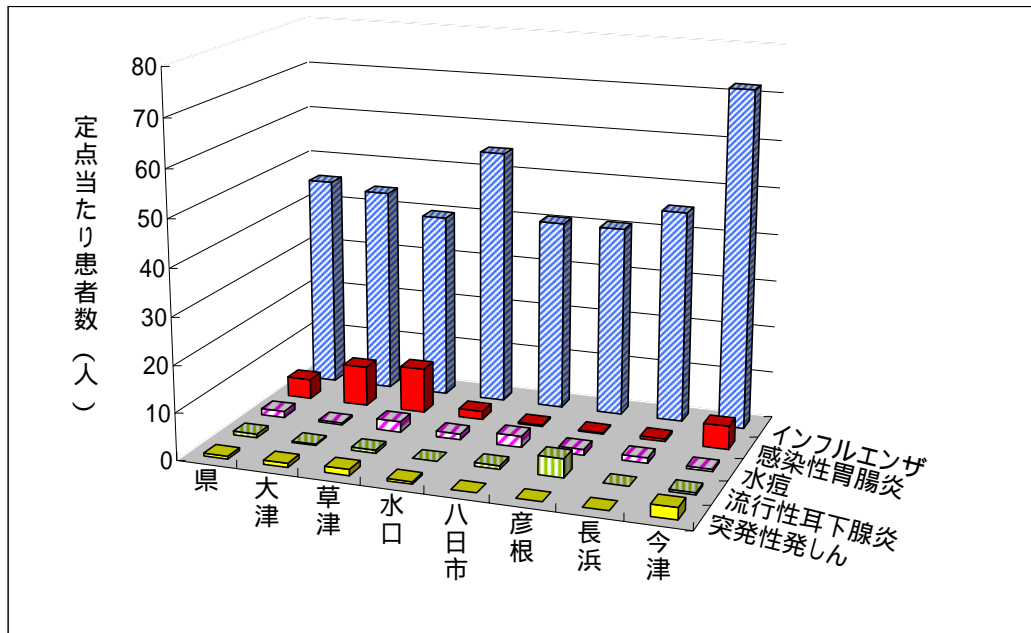
感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム(厚生労働科学研究事業)では過去5年間の患者発生状況をもとに疾患ごとに定点当たり患者数の基準値を設定しています。

流行発生警報-----インフルエンザの場合、定点当たり患者数が30人以上という基準値を超えた時に出されます。流行発生警報という表現により大きな流行が発生した、または発生している可能性があるという情報を提供しています。

* 詳細については警報・注意報発生システムとは(国立感染症研究所感染症情報センター)参照
<http://idsc.nih.gov/jp/disease/influenza/inf-ho/guide04.html>

感染性胃腸炎については、先週の定点当たり患者数4.03より増加し4.27となっています。また、水口および八日市保健所管内においては、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生がみられますので感染予防についての十分な注意が必要です。

上位5疾患の保健所管内別発生状況(平成17年第10週、H17.3.7～H17.3.13)

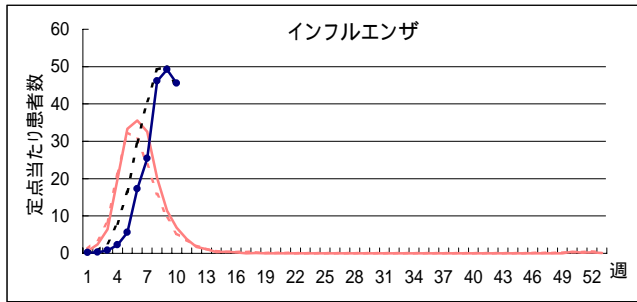


第10週における定点当たり患者数上位5疾患(インフルエンザ、感染性胃腸炎、水痘、流行性耳下腺炎、突発性発しん)の保健所管内別発生状況についてみると、インフルエンザの発生は各保健所管内とも最も多くなっています。感染性胃腸炎の発生は大津、草津および今津保健所管内でインフルエンザに次いで多くなっています。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は彦根保健所管内で多く発生しています。

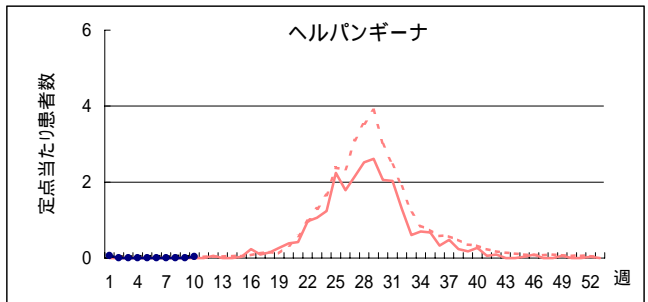
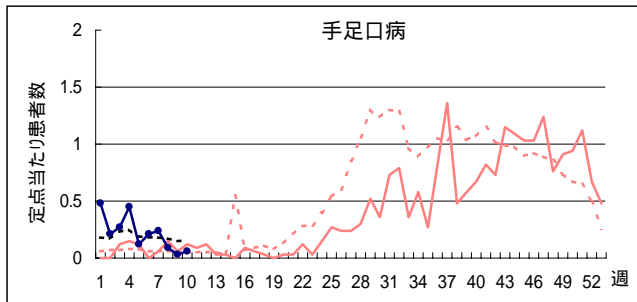
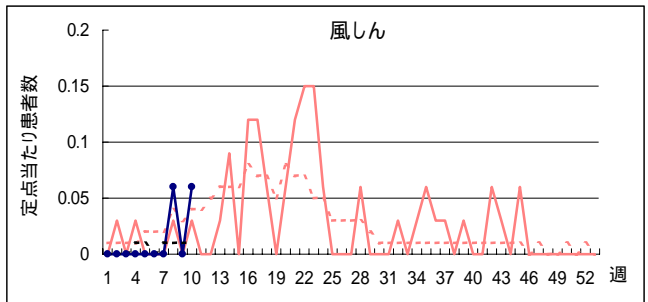
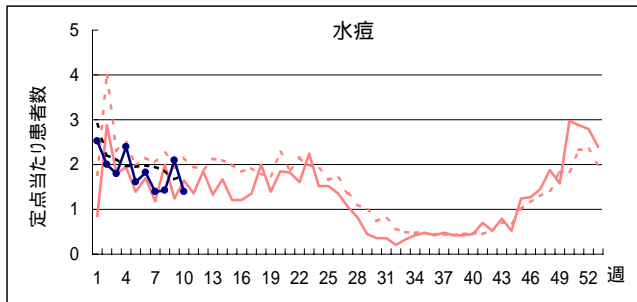
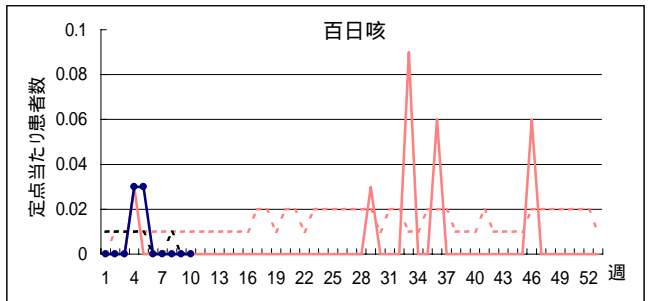
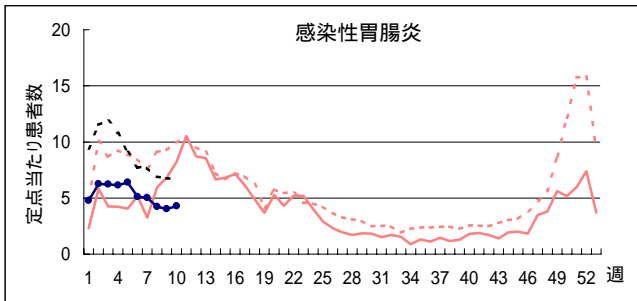
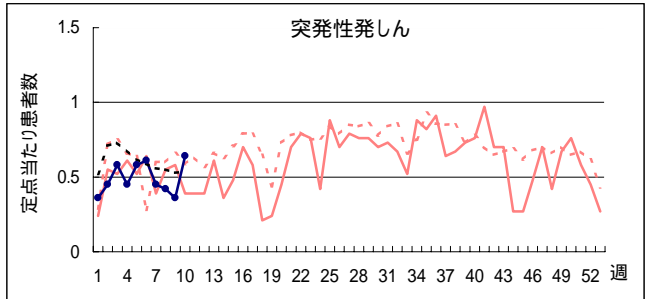
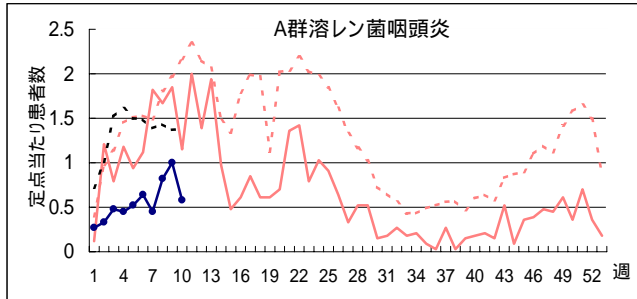
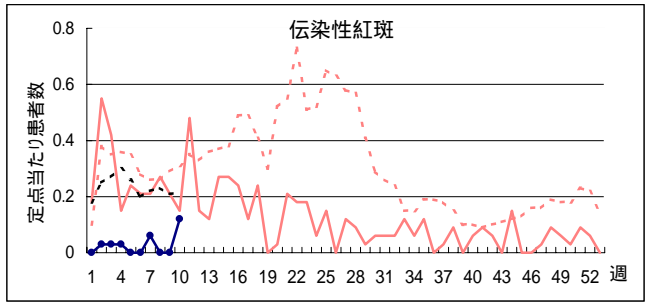
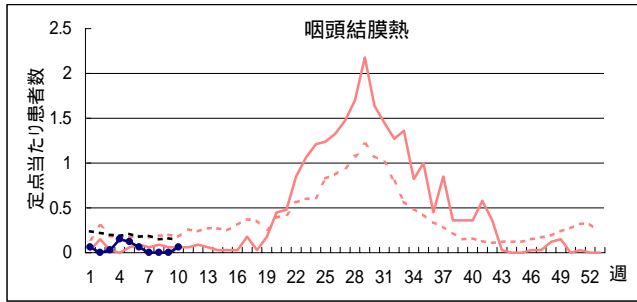
また、上位5疾患以外では、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が今津保健所管内において非常に多く発生しており、定点当たり患者数は5.00となっています(他の保健所管内における定点当たり患者数は0.17～0.50です)。

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.gov.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第10週、H17.1.3～H17.3.13)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第10週、H17.1.3～H17.3.13)

H16 { 滋賀 ———— 全国 }
 H17 { 滋賀 ●——● 全国 }

